すみだ地域での仕事確保運動50年

東京土建墨田支部 書記長 出雲 洋行

「住まいの要求」を運動化
約10年毎に振興計画を策定

11月27日の第8回「中小企業を元気に！」シンポジウムで墨田支部の出雲洋行（いずもひろゆき）書記長が行なった報告をまとめました。（文責・見出し共に編集部）

墨田支部の仕事確保の運動について、50年ぐらい前からさかのぼりながら、現在はどうなっているのかについて報告します。

一つ目は1974年、この年に仕事確保の組織として、墨田建築センターという組織ができたのですが、わずか2年程で解散してしまいました。原因は事務局体制がダメだったことと、もう一つは組合運動に参加してない人もこの組織に参加できるということで不公平感があったということです。「我々は組合運動をしっかりやっているのに、なんであいつはやってないのに仕事をもらえるんだ」ということで、当時いろいろあったようです。

1980年8月に第1回すみだ住宅デーが開催されました。地域の皆さんに技術技能奉仕する1日として現在も行なっている取り組みです。1983年には、再び受注の受け皿組織として、墨田住宅センターを設立しました。これをちゃんと運営していかなくてはいけないことから、1986年3月に墨田住宅センター産業振興計画を完成させました。

1991年9月には墨田支部をもっと広く地域にアピールしたいとすみだ住宅まつりを錦糸公園で行ないました。これも現在続いているイベントですが、昨年と今年についてはコロナ禍で残念ながら開催が出来ていません。1997年、高齢者宅への手すり取り付けボランティア活動を始めました。2019年まで23回を数え、のべ1918件の区内高齢者宅へ手すりを取り付けています。

キラキラ茶家を商店街に開設

2001年4月には、新たな仕事確保を目指そうと協同組合すみだ建築センターを法人として設立しました。2006年6月には、墨田区耐震化推進協議会（当時は墨田区耐震補強推進協議会）に幹事団体として参加し、設立に携わりました。これは墨田区が木密地域を多く抱える地域であり、耐震化に向けて団体がそれぞれやるよりも建築士事務所協会、建設業協会、建設産業連合会、そして我々東京土建と墨田区も入って設立されたもので、現在に至っても活動をしています。

2007年6月にNPO法人すみださわやかネットを設立し、住み続けられる墨田区をめざし住民居住支援組織作りを始めました。2009年には京島のキラキラ橘商店街にキラキラ茶家という拠点をおき、地域住民への相談事業を始めました。2020年3月には第4次となる地域建設産業振興計画を策定しました。東京土建墨田支部はこんな形で建設業、労働組合に求められる地域に根ざした仕事確保の運動を行なってきました。

1974（S49）年
『墨田建築センター』設立（後に解散）。

1980（S55）年8月
第1回すみだ住宅デー開催。

1983（S58）年
『墨田住宅センター』を4月1日設立。

1986（S61）年3月
「第1次地域建設産業振興計画」報告書完成。

1991（H3）年9月1日
第1回すみだ住宅まつり開催。

1996（H8）年4月
「第2次地域建設産業振興計画」報告書完成。

1997（H9）年
高齢者宅への手すり取り付けボランティア活動が始まる。

2001（H13）年4月
『協同組合すみだ建築センター』設立。

2004（H16）年3月
「第3次地域建設産業振興計画」報告書完成。

2007（H19）年6月
NPO法人すみださわやかネット設立。
2009年、キラキラ茶家開設。

2020（R2）年3月
「第4次地域建設産業振興計画」報告書完成。

出雲さん

信頼の蓄積が「仕事」に
すみだブランドを目指して

40年にわたって住宅デー運動、30年にわたって住宅まつりを行なってきました。そして、大手住宅産業の進出から仕事を守ることと住宅の作り手が住み手の信頼を獲得していくことを結びつけ、これまでの運動の成果や課題を確認しながら、約10年ごとに4次に渡る産業振興計画を策定してきました。この産業振興計画は墨田支部だけで作っているのではなく、大学の先生やその時々の高齢者、福祉、住宅など様々な問題の研究者の方に依頼して提言をもらってそれを組合運動に取り入れる中で様々な成果物を出してきました。第1次地域建設産業振興計画では、地域活動の中期展望の策定と安定的な墨田住宅センターの運営を実現しました。

第2次では、介護保険を活用した住宅改修促進と2001年の協同組合すみだ建築センターの設立です。現在、同センターの受注は、6割、7割が公共工事、残りが民間工事ということで推移をしています。区民の住まいの要求を把握し、それを区の制度にもつなげ、その活用を組合に普及するという活動スタイルが定着し、墨田区行政との信頼関係を築いてきました。

横断的な専門家集団
ワンストップで問題解決

続いて第3次では、NPO法人のすみださわやかネットを設立しました。そして、法律家、税理士、司法書士、建築士などの専門家を交えて相談できる拠点を作りたいということで、キラキラ茶家を開設しました。墨田区は借地借家が非常に多く、その複雑で錯綜した権利関係をワンストップで解決していきたいという一点で、現在も事業展開を行なっています。「さわやかネット」の拠点となるキラキラ茶家では現在、墨田区社会福祉協議会、キラキラ橘商店街とコラボレーションしたり、すみだ食育ｇｏｏｄネットとは子どもに限らない「子ども食堂」的なことをやっています。また昨年、墨田キャンパスを開設した千葉大学ともコラボレーションしています。

4次の産業振興計画についてはコロナの状況もあり、やっと今年の7月13日に和洋女子大の中島明子先生にお願いをして報告会を開くことができました。この中身については第3次以降の取り組みの総括と、我々組合員や居住者の住宅事情と建設業者との繋がりについて調査分析をしました。そして、「すみだブランド」を確立しようと、住まいのニーズにこたえるシステムを構想することが提言されました。具体的には支部が持っている知識や手順の活用と地域との連携が「すみだブランド」になると考えています。

墨田支部の仕事対策運動は、地域や自治体との信頼関係を構築して発展させた結果を、仕事確保に結びつけてきました。単純に仕事確保を求めるだけのものではありません。この50年ほどの歴史と信頼の蓄積があってこその仕事確保だと考えて、運動を進めています。「信頼は財産」です。

キラキラ茶家。茶屋ではなく、あえて茶家で表記

仲間ねっと

最も大切なのは仲間増すこと

大工　新妻　操

今、私に出来る事は、東京土建の組合員を増やす拡大行動です。

仕事の合間に拡大袋を手に訪ね歩く事を心掛けています。仲間を増やす事は最も大切と考えて、常に私のバッグには拡大袋とタオル。何時でもどこでも一声掛けて、仲間を増やす行動を行なっています。まずは笑顔で東京土建の幅広い取り組みを理解してもらえるよう説明して、今日も明日も、前向きな気持ちで廻り続けていこうと思います。また、私は世田谷支部・上深分会の防災部長でもあるので、大地震の時の行動の説明も加えて、拡大を訴えています。

最も大切な事は仲間を増やす事です。誰かがではなく、大勢の仲間で協力し合って、東京土建をもっと大きな組合に育てましょう。

（世田谷）